

特集 2

大学院

《総合科学 科

どんな進路へ進むの？

文系・理系

どんな授業をしているの？

入学試験の内容は？

大学院総合科学研究科。身近なようで、詳しく知らない学生も多いのではないのでしょうか。今回は、大学院についてもっと知るために、と院生の方にインタビューさせていただきました。

事前に少し調べてみると、専門用語で授業内容は意味が分からず。それまで院に対しては漠然と「難しい研究をするところ」というイメージしか無かったのですが、いざインタビューをしてみると、院についての興味深い話をたくさん聞かせていただくことができました。

大学院

Graduate Sch

って、
どんな

Integrated
Art

インタビュー…吉田光演先生

総合科学研究科副研究科長
言語文化プログラム

吉丸さん

総合科学研究科前期課程 [M]
総合科学部卒業

アラタ

総合科学研究科後期課程 [D]
教育学部卒業 中国出身

D

出身
院生の方はどこから来ていますか？

吉田「全国の大学から来ていますが、広大生の割合は博士前期課程で約38%、博士後期課程で42%です。↓表①。ちなみにM（前期課程）が定員60人、D（後期課程）が20人です。もちろんこれは広島大学全体なので総合科学以外の学部の人もありますが、総合科学部の学生さんがかなりいると考えていただいていると思います。」

にも韓国、バングラデシュ、ギリシャ、アメリカ出身の方など留学生が結構多いのが特徴的です。」

文系、理系の比率は？

吉田「Mの方では文系は6割、理系が4割です。Dの方ではあまり変わらず、大体半々です。若干文系の方が多いいでしょう。教員の数も文系の方が少し

多いです。」

プログラムについて

文系、理系の違いというのはプログラムが環境、人間、文明とあるので、環境が理系で、他の2つが文系ということですね。人数に違いがあるということでしょうか？

吉田「そんなことはありません。大学院

「環境科学部門」という3つの部門からなっています。それぞれの部門の中に理系と文系が混ざっているという形になっていて、「文明科学部門」だけは文系中心になっていますが…だから

理系的な要素が入っている。ちなみに、吉丸君は

21

	人数 (M)	割合 (M)	人数 (D)	割合 (D)
文系	76	59.8%	61	51.7%
理系	51	40.2%	57	48.3%
計	127		118	

表①

広島大学出身者	博士前期課程Master		博士後期課程Doctor	
	人数	割合	人数	割合
18年度	63名中24名	38.1%	39名中13名	33.3%
19年度	63名中23名	36.5%	30名中15名	50.0%
20年度	47名中19名	40.4%	40名中20名	50.0%
21年度	60名中22名	36.7%	29名中10名	34.5%
計	233名中88名	37.8%	138名中58名	42.0%

☆プログラム

総合科学研究院、3つ+αの部門に分かれています。それぞれ「人間科学部門」「文明科学部門」などがあります。

断でき、自分の興味に沿って研究するのが21世紀科学プロジェクトであ

という研究の方に属しています。大学院はやっぱり、学部と違って研究センター、とい

研究するときの専攻は学部と比べると狭いということですが、3つの部門の中に理系と文系が混ざっているのは関係するのですか？

吉田「関係すると思っています。これには2つあって、大学院で授業を取っていくカリキュラムの部分と、研究の

部分があります。大学院の学生が授業を

んでですけど、教育的な側面がある部分
がかなりあって、全体の土台に当た
コア科目というのがあります。コア科
目は共通科目になっています。Mで
入ってくる学生は全員、4つの講義、
「現代リスク論」、「総合情報論」、「文
明と環境」、「創造と想像」から2つを
必ず受講します。4つの講義には、そ
れぞれ文系と理系の先生が必ず加わっ
て授

共通科目を取るだけでなく、たとえば
人間科学部門の言語研究領域に属して
いる人はその領域から8単位とって、
それ以外の領域からもう2単位取っ
て、別の部門からも取ってくるという
形で、自分の分野だけで完結するとい
う風になっていないんで、自分の専門性を見つめながら、同



吉田光演先生

☆コア科目

総
を学ぶために開設
された共通科目。21
世紀の具体的な問題
について理系、文系
の枠を超えて取り組
むプロジェクト型の
科目。

時に違った観点というのを取り入れて
もらうという風になっています。21世紀
科学部門というのは部門の3つの壁も
取り払って、その壁を越えた形で横断
的に取ってもらうということになりま
す。

てくるかというところがなくて、そ
こで違った見方というものが必要に
なってくるんですが、これをどうやっ
て教育と研究とに取り入れていくかが
なかなか難しいですね(笑)。

↳進路

——文系の方はどのような進路に行か
れていますか。理系の方は院を出て
も、メーカーに行ったりし易いとい
うことがあると思うんですが。

吉田「院自体が平成18年からののであ
まりデータは無いんですが、進学する
人は博士の後期(D)に上がって、もっ
と研究を突き詰めていこうとする人が
かなり何人もいます。公務員は学部時
代に公務員試験に受かればいいです
が、受からなかった場合にMの2年間

ます。Dまで行くとかかなり専門性が強
くなるので、就職はできるとは思いま
すが、職種の幅は狭まるかもしれませ
ん。ただ、就職のレベルでは2年間の
Mの間は基本的に学部とあまり変わら
ない、むしろ専門的知識をつけたりし
て、そんなに壁は無いと思います。

教員とか、地方公務員とか目指してい
る方は大学院でも全然ハンデはな
い。だから文系の方でも大学院のMく
らいは出るということはそんなに就
職の上で問題になることはないと思
います。理系の方はかな

学生が多くて大学院を出ての方が有利
だったりするわけですよ。ただし、
Dを出ると、研究者になりたいけどな
かなか無いということもあります。特
に分野によって結構需要がある所と、
無い所があったりするので、同じ文系
でも十把ひと

す。これはあくま
行った場合で、だからMの2年はそれ
ほど不安に思うことはありません。
また、理系の方は、製造業や研究機関

ないかなと思われれます。文系の場合
は、どこの大学院へ行っても、やはり、
自分の専門が活かせる仕
トに見つ
けばなかなか無いと思つたほうがいい
かもしれません。
ただ、大学院の話じゃないのですが、

この前ホームカ
ミングデーで、
NHKの広島
国新聞の方が来
ど、マスコミの
ジャーナリズム
関連というの

☆前期課程

2年間。修士。Master (M)

☆後期課

3 Doctor (D)

非常に求められているそうです。

聞に入る方はかなりいるらしいです。」

授業について

先生の学部と院での授業の取り組 み方に違い

吉田「特に大学院の授業の取り方で、
専門の研究領域の授業でも、専門以外
の学生の人が取らないといけないとい
うこともありまして、大学院の授業
はかなり学際的な方向で、専門分野に
特化されていない学生にも分かるよう
に、しゃべることを心がけています。
授業

で、そういう人に分かるような講義に
しています。授業科目それぞれが大抵、
2人の教員とかで組んで、チームワー
クを意識しています。この
クが一番最先端がさつき言ったコア科
目で、これなどは、文系、理系すべて
討論を行って、学問の総合性とか、21



授業の風景（認知情報処理論）

世紀の問題を解決するために何が必要かということでは自分の専門を生かしながら、シヨンしてもらおうっていうのを中心にしていきます。本当にこの授業は皆さんにもお勧めしたいぐらいの総合科学のエッセンスっていう感じで力を入れてやっていくつもりなんです（笑）。もう一つは、では専門性の方はどうするかということですが、専門性の部分は、ゼ、Mがあつて、これは本室単位でものすごくハードに厳しくやります。この授業は学部時代と全然違って、それぞれの研究室のテーマに沿って、例えば、修士論文を書く、博士論文を書くということを経験的にゴールにします。それまでに、さらに学会で発表したり、論文を書いたりと

かっているのをやるんですよ。雑誌、学会誌、専門誌に載せる。それをひとつの目プしていくという形になっているので、その鍛え方っていうのは学部とは全然違います。研究室の中で厳しくやった方が、学会発表でもいい結果が出せますね。中で厳しくやって、もう叩かれて、何くそってまた勉強して、そうしてやってくと、学会とかに出ても大丈夫。そういうことで、大学院というのは、先生と院生の1つの研究っていうレベルでは同じなので、この研究をするっていう目、吉丸「僕の場合は比較的先生が自由にさせて下さるので、結構自分のやりたいうようにやっています。でもその代わり、専門の、音声学を専門とされる方々の前で発表しないといけなかったりするので、総合演習以外でも、先生のとこに伺って、ここを直した方がいいという指、

も厳しい。学部の時だったら、卒業論文は、ある程度妥協も許されたんですけど、あるものが許されない。まあでも、かなり妥協してるんですけど（笑）。」吉田「Dの方は、もうひとつ上のランクの研究演習があります。そこでは、もうほとんど、先生と1対1になってくるのかな、論文指導とか。」アラタ「はまた違って、Mの時は先生からこの内容で発表しなさいとか、ちゃんという指示があつたんですけども、今はもう自分決めるので、発表の材料とかが見つかつたら発表を自分で決めて自分で進めていきます。決めていかなければならず、頼る人は自分しかないのです、自分でやってそのあとで先生に見てもらって、それから作っていくっていう形です。」21世紀プロジェクトはカリキュラムの中に入っているんですか。吉田「一部分入って、べたコア科目というのは、4つのうちの2つを選択して、4単位を取ら

目の運営には、RM（リサーチマネージャー）プログラムが全面的にかかわっています。それで、コア科目をはじめた時には先生が4人担当し、1人につき3回ずつの講義を総合科目のようなんです。それで、そのときは、特に学部から上がった先生さんかもしれないけど、ただ先生がしゃべってるだけじゃないですか」っていうありました。「どかが総合科学的で、どかが新しいんですか」っていう厳しい意見もあつたんです。では、どうしようかっていうことで話し合い、やっぱり総合科学研究科という新しい大学院なのだから、新しいテーマをみんなで追い求めないといけない。だから、系の学生も理系の学生も先生もみんな一緒にやって議論しよう、グループ討論は5〜6人で行おう、違つて作り上げていこうっていうことになり、このプログラムが始まりました。アラタさんには、TA（ティーチング・アシスタント）っていうのを2回ぐらいやってもらっています。」



吉丸さん（左）とアラタさん（右）

い人から見ると何
じかもしれません。もう一つは案外知
ら

うのがあって、推薦入学は自己推薦。
で、4年生を対象に、こ

7月ぐらいにありま

それで、推薦入学の方は、やる気のあ
る人にはお勧めの試験でして、自己推
薦書で計画を書いてもらう。それをめ
ぐって口述試験を行うという試験なの
で、ちゃんと研

ば、筆記試験はありません(笑)。

この自己推薦の試験は、是非たくさん
受けてほしい

先生の専門とちゃんとマッチングし
ていれば、きちんと具体的な研究計画
になっていて、ディスカッションでき
ますよね?

先ほども言いましたが、特にメッセー
ジとしては、4年間勉強していく中で、
このテーマについて自分はまだ引っか
かっているぞ、これについて知りた
い!そういう強い思いがあればどんど
ん進
逆にネームバリューだけで大学院を選
んでも何にもならないですね。」



引き続き院生のアラタさん (D)、吉丸 () インタビューしました。

院の志望動機

なぜ、院に進学されたのですか。

吉丸「僕が院に進学

教職に就こうと考えていて、そのため
に総合科学部だけの知識では……とい

育学部知識に太刀打ちできないな
と思っただけです。それで、音声習得と
いう面で教育学部に勝てるような研究
をしたいなと思い、大学院に入りました。
そのため、音声習得の専門家の
山田純先生のご指導のもとで音声
得、音声習得の中でも特に日本人
米人を

かにして教育の音声指導上の留意点と
いうものを提案できたらと考えていま
す。音声を欧米人と比較してどのよう
な特徴がある

特徴

のはポジティブなものなのか、或いは
ネガテ

ネガテ

であればそれをどのようにしたら改善
できるのかというようなことを実際に
現場に立った時に教えられ

に

たいと考えています。」

アラタ「大学院生になったのは随分前
のことなんですけど(笑)。私は日本の

大学

うと思って、大学院に入りました。」

先生というのはどこの先生ですか。

アラタ「そうですね、国に

て

れば大学のんですけど、駄目なら高
校でも専門学校の先生でもいいのでな
りたいなと思っています。」



アラタ
アラタさん

院の面白さ

大学院の授業はどのあたりが面白
いと思いますか。

吉丸「大学院は自分の専門を追求した
人が行き着くところというイメージが
ありま

いろいろんな分野の人が、例えば

文系の

系の

逆に、文系の人が理系の授業にも参

するという多角的な視野を得る上で有
利というか、そのために役立つ授業は

かりなのでそういうところがすごく
いなと思っています。例えば『文系対
象科学基礎実験』という

それは文系の人が理系の視野を一つの
単一の

のために開講している授業なんです。

そういう授

力じゃないかなっ

い

アラタ「私は

は

せん。あるのはゼミだけで、1対1の
先生とのやりとりだけです。

研究分野の発表でも、ゼミに関しては
MはMで、DはDでやっていますので。
Dで社会科学研究科の院生の方で、先
生のところについている方がいるんで
すけれど、総科のDと社会科学のDで
は別々にゼミをしていますので、総合
科学研究科では私だけです。なので、
ゼミのときは私1人になります。」

吉丸「1対1の授業って僕も昔、院生
のときにあったんだけど、自分が行か
ないと成立しない。それってすごいで
しょ。遅刻していてもずっと先生が
待ってるんだから。」

アラタ「行ったとしても、自分から何
か言わないと先生は何も言いません。
自分からこういう調査があって、こう
いうことをしましたって言うと、先生
がそれに対してアドバイスをしたり、
他に

文も読みなさいと言って下さるんで
す。何もなくて準備してません、って





☆大学院生の部屋

大学院生には自分の部屋が割り振られます。上の写真はアラタさんたちの部屋の様子です。

吉丸「それにフランス語、中国語、台湾語でも作りました。」

吉田「それらの言語で作ってアンケートとしたけど、うまくいかなかったようだと言いましたけど。」

吉丸「はい。ベトナム、ブラジルなどの人が多くてポルトガル語の必要性が……。」

吉田「外国人というのは多様だったことを知ったんですね(笑)。そういうことを実地で知ったのはいい経験ですよ。」

〈留学〉

——アラタさんにお聞きします。なぜ日本を選ばれたんですか。

アラタ「偶然の出会いがあって、私が国にいるときは19歳で専門学校を卒業してから、アルバイトをしていました。あまり就職がなくて、その時にアルバイト

さんがいつも食べに来て下さいました。

そのおじいさんは、忙しいときにご飯を

終わった後にきれいに

片付けて下さったんです。

私はすごく親切な

人だなと思っていました。

ある日、おじいさん

は何人かの若者と一

緒に来て訳の分からない

言葉を話していました

んだかすごく勉強した

んだかすごく勉強した

いなど思っ、後で店長にさっきのおじいさんのしゃべっている言葉はなんですかと聞くと、それは すよ、

した。日本語を勉強したいという思いで日本語学校に行ったら、私の学校と日本の大学に提携がありました。日本語能力試験一級に受かったら、日本の大学に行けます、という制度がありました。

それで、1級を取った。なんだかすごく変なエピソードなんですけど。

だから、おじいさんとの出会いがなければ、日本語とは縁がなかったかもしれませぬ。その人

しているか分からないんですけど。」

——質問は以上です。ありがとうございました。

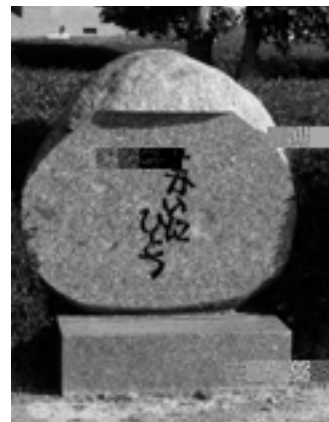
〈インタビューを終えて〉

大学院

ないことばかりで、とても興味深い話でした。特に、試験の話や進路について、実際はこうなんだということが分かって かつ

で、やっぱり研究はとても苦勞して、

やってるんだということも、分かりました。学部と同じく、院でも「総合科学」をどのように扱っていくかに、いろいろ工夫をこらしているんだと思



いました。今回の取材で、大いイメージが膨らみました。

【担当】 20生 世良 真一郎

21生 吉田 聡
久住 忠彦